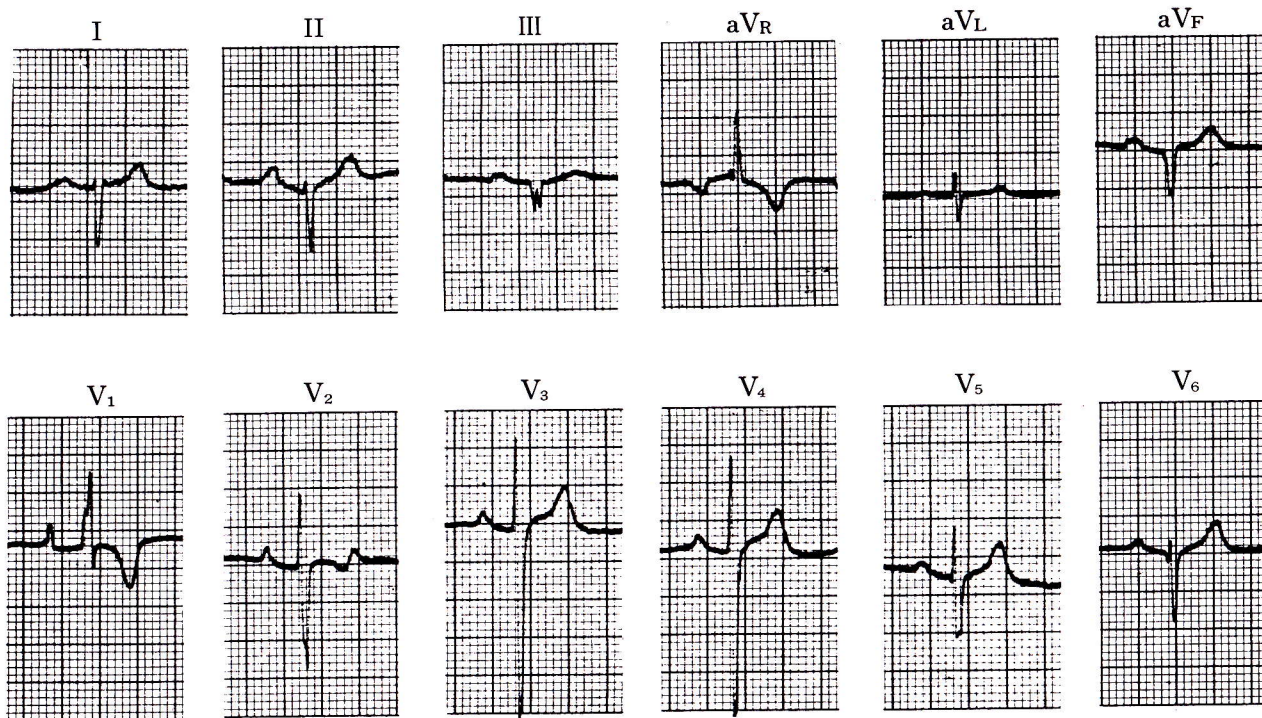


# 症例 18

●31歳 男

●心室中隔欠損症＋肺動脈狭窄症で根治術施行後の患者。



- 1) 前額面QRS電気軸はどうか。
- 2) V<sub>1</sub>, V<sub>6</sub>のR/Sから何を考えるか。

## 過度の軸偏位，右心性P波，右室肥大

(R+S)はI，II，IIIとも負．前額面QRS電気軸は $-130^\circ$ であり，過度の軸偏位である． $V_1$ のP波は尖鋭で2.5mmあり，右心性P波の基準を満たしている． $V_1$ のR波は10mmでR/Sは4，

$V_1$ から左へ向かってR/Sは減少し， $V_6$ ではR/Sは1より小．右室肥大である． $V_1$ の深い陰性T， $V_2$ の2相性Tは右室肥大に伴う2次性のT変化と考えてよい．

## MEMO

## 〈右室肥大〉

ミネソタコードの右室肥大基準は，

$V_1$ の $R \geq 5\text{mm}$ ，かつ $R/S > 1$ ，かつR/S比が $V_1$ の左側で減少

である．

森らは，

1)前額面QRS電気軸 $\geq 110^\circ$

2) $V_1$ の $R/S \geq 2$ ，かつ $V_1$ のR波 $\geq 5\text{mm}$

3) $V_6$ の $R/S \leq 1$

を提唱している．

右室肥大基準は多くの研究者が少しずつ異なった基準を提唱しているが，左室肥大に比し偽陽性率，偽陰性率が高く，信頼性が低い．

本症例のように **voltage criteria** (QRS波の振幅による基準) を満足するうえに，右軸偏位，右房負荷所見を伴っている場合には右室肥大の診断は確実であるといえる．